

平成30年度 第1回北陸における広域道路交通のあり方検討会 — 主な意見 —

1. 北陸地域

- ・北陸ブロックのなかで、新潟・富山・石川の役割を明確にした方が良い。東京からみると、北陸は石川・富山のイメージが浮かぶ。新潟の位置づけを明確化して考えていくべき。
- ・日本海側の南北で活性化を目指すのか、三大都市圏との繋がりで活性化を目指すのかなど、全体の議論を活性化する必要がある。
- ・災害時において、隣県の連携は重要であり、上越地域と富山・石川の連携を更に強固にする必要がある。

<対応>

- ・北陸地域の各県における都市が何処とつながりが強いのか、図表などを整理
⇒ビジョン：P. 7、15～16（将来像） 別冊（資料集）：P. 18、19
別冊（資料集）P. 32 新潟・富山県境を含めた観光周遊の取り組みを追加
P. 33 新潟県の観光客数の現状や取り組み強化の必要性を整理

※広域道路ネットワークの基本的方針にて記載

2. 道路ネットワーク

- ・関東との繋がりには環状道路が何重にも整備されていて代替性が高い。一方、北陸と名古屋・大阪は繋がっているが関東に比べ貧弱で代替性がない。物流を支えるために整備が必要ではないか。

<対応>

- ・高速道路を含む広域道路ネットワークの現状や災害時のリダンダンシー機能について整理
⇒ビジョン：P. 3 別冊（資料集）：P. 10、11

※広域道路ネットワークの基本的方針にて記載

- ・広域交通は、長トリップを如何に捌くかが大きな課題であり、国道や高規格道路は災害時のリダンダンシーや交通安全での観点から、4車線で繋がっていることが最低限の条件であると考ええる。
- ・除雪を考える上では2車線は不利な状況であり、4車線以外にも広幅員化や3車線化などの方策も検討をお願いしたい。

<対応>

- ・高速道路および直轄国道の車線数について整理
⇒ビジョン：P. 3 別冊（資料集）：P. 10、12

※広域道路ネットワークの基本的方針にて記載

3. 防災拠点

- ・ 防災拠点としての道の駅の活用について、北陸独自の対応を考えた方が良いのではないか。
- ・ 高規格道路では、防災拠点の整備が進んでいると聞いているため、全体配置との関係で他の道路のことも考えられるのではないか。

<対応>

- ・ 防災拠点としての道の駅の整備事例や道路網との位置関係を整理
⇒ビジョン：P. 32 別冊（資料集）：P. 72、73
※広域道路ネットワークの基本的方針にて記載

4. 観光・訪日外国人への対応

- ・ インバウンド観光は経済的に大きな効果があるので、空港と港での外国人の増加状況や交通手段についてデータの整理をお願いしたい。
- ・ 災害時における太平洋側のリスク分散や、インバウンド観光の面で考えると、空港や港湾などの拠点と、道路がどの様にリンクしていくかという視点が必要である。
- ・ インバウンド観光で外国人が多くなっている現状を踏まえると、道路が被災した場合における外国人対応などを検討してほしい。

<対応>

- ・ 訪日外国人の増加状況について、鉄道、クルーズ船、空港の利用について整理
⇒ビジョン：P. 19、20 別冊（資料集）：P. 41～45
- ・ 空港や港湾と道路網との位置関係を整理
⇒ビジョン：P. 4 別冊（資料集）：P. 13
- ・ 道の駅における訪日外国人への配慮や交通事故の現状について整理
⇒ビジョン：P. 21 別冊（資料集）：P. 46～49

※広域道路ネットワークの基本的方針にて記載

5. 過疎地域

- ・ 今後、中山間地域がどうなっていくのか、もう少しデータ等の分析をする必要がある。
- ・ 高知県では、中山間地域対策として過疎の村に拠点センターを整備して、そこを物流拠点、大型の拠点ではなく、一般の人の登録制により車で移動する人がいれば人や物を運んでもらうということを実験的にやっている。ただし電波が飛んでいないや高齢者が相手のため、ICTやAIが活用できない。この様な取組は、日本全国各地で行われている。
- ・ コンパクトシティで過疎地域を終わらせるのではなく、利便性を確保しながら生活ができるようにするにはどうしたら良いか各県が対策を講じているが、絶対的に有効な方策はない。試行錯誤で、良いものがあれば紹介するといった方向性かなと思う。
- ・ ICTやAIがフルに活用できるのはある程度の都市部であり、過疎地域でICTをフル活用するには困難な部分もある。
- ・ 中山間地域と言っても、全て同一に議論できないと思う。能登の農家民泊をやっているようなところは活性化しているし、金沢でも中山間地域はある。それぞれを同じに議論できないというのが実態ではないか。
- ・ 中心都市からある程度近いところと、中心都市とかなり離れたところでは、対応の仕方を変えなければならない。
- ・ 中心都市から遠いと、買い物、医療、交通をどうするかが課題である。道路は良くなってきているので、雪が降った時の問題などがでてくる。

<対応>

- ・ 北陸地域における公共交通支援の取り組みについて整理
 - ・ 高知県における道の駅を活用した事例を紹介
- ⇒ビジョン：P. 18 別冊（資料集）：P. 41、51

※交通・防災拠点、ICT交通マネジメントの基本的方針にて記載

6. その他

- ・富山は地震が少ない訳ではない。地球の歴史上からみると地方による差はない。

<対応>

- ・北陸地域の産業に適した環境は、豊富な水資源や伝統産業の基盤、交通インフラ等を理由として整理（地震については地域差が無いため削除）
⇒ビジョン：P. 10 別冊（資料集）：P. 24

- ・地球温暖化等を踏まえた雪・雨の問題は重要であり、もう少し検討しても良いのではないか。
- ・北陸は雪が多いため、平常時も含む冬期間の交通確保という観点を入れて欲しい。

<対応>

- ・気温、雨、雪の近年の気象状況について整理
⇒ビジョン：P. 2 別冊（資料集）：P. 6～9
※広域道路ネットワークの基本的方針にて記載

- ・国際海上コンテナの増加という背景から目的からの意図はわかるが、ハード的な対策に重きがあるため、ソフトとの両輪でまとめる必要があると思う。

<対応>

- ・現在のICT等による様々な取り組みを整理
⇒ビジョン：P. 33～35 別冊（資料集）：P. 75～77
※ICT交通マネジメントの基本的方針にて記載